

二〇二〇年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

国語

受験番号	
氏名	

- 一 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 二 問題は、1ページから4ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 四 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 五 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 六 この問題用紙は、持ち帰ってください。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(驚田清一『わかりやすいはわかりにくい? —臨床哲学講座』による)

問一 傍線部①③について、カタカナは漢字に改め、漢字は読みを平仮名で書け。

問二 波線部Ⅰ「受けとめること、認めることだけが聴くことでない」という表現について、文末を「ある」に改め、意味を変えずに言い換えよ。

問三 波線部Ⅱ「そういう言葉のやりとりにかける時間」とはどのような時間か、説明せよ。

問四 波線部Ⅲ「そういう悪循環」について、次の①、②に答えよ。

①「悪循環」という語を用いて、一般的な意味や使われ方が分かるような例文を一つ作れ。

②本文では、どのようなことを指して「悪循環」と言っているのか、説明するための板書例を示せ。

問五 波線部Ⅳ「このお母さんは素敵だと思った」のはなぜか、本文の内容を踏まえて説明せよ。

問六 波線部Ⅴ「妙にわかられたら逆に腹が立つ」のはなぜか、本文において「納得」について述べられたことに触れつつ、「他者の理解」という観点から説明せよ。

問七 波線部Ⅵ「このことはもっと大きな社会的次元においても、つまり現代社会の多文化化のなかで起こるさまざまな葛藤や衝突のなかでも、同じように言えるはずだ」について、なぜ「同じように言えるはず」なのか、現代社会のあり方に触れつつ記せ。

問八 「高等学校学習指導要領」(平成21年3月告示)「国語総合」の「話すこと・聞くこと」の指導事項を一つ書け。

二次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

『十訓抄』による

(注)

三河守知房…藤原知房。平安後期の官人。
範永朝臣…藤原範永。平安後期の歌人。
公任卿…藤原公任。平安中期の公卿、歌人。

伊家弁…藤原伊家。平安後期の歌人。
定頼中納言…藤原定頼。公任の子。

問一 二重傍線部ア、イの読み方を、平仮名で答えよ。(現代仮名遣いでよい。)

問二 波線部 a s c を、それぞれ口語に訳せ。

問三 傍線部①について、語り手がこのように述べるのはどのようなことがあったからか、説明せよ。

問四 傍線部②、③について、それぞれ品詞分解し、文法事項を説明するための板書例を示せ。

問五 傍線部④について、口語に訳せ。また、「これ」とは具体的にどのようなことを指しているか、説明せよ。

問六 傍線部⑤「よくいたれる人」とは、この文章中では具体的に誰のことを指しているか、答えよ。

問七 『十訓抄』と同じ時代に成立したと考えられる作品を次から選び、記号で答えよ。

ア『雨月物語』 イ『古今著聞集』 ウ『日本霊異記』 エ『枕草子』 オ『大和物語』

問八 本教材を用いて、「高等学校学習指導要領」(平成21年3月告示)「古典A」の2内容(1)ア「古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察すること。」について指導する際に、どのような言語活動が考えられるか。2内容(2)の言語活動例を踏まえて答えよ。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部訓点を省略した所がある。)

『史記』による

(注) 高祖……ここでは、漢の劉邦のこと。 雒陽……洛陽。 項氏……項羽。
高起・王陵……ともに漢の高祖に仕えた將軍。 子房……漢の高祖に仕えた名宰相、張良の字。
鮑鱣……食糧。 蕭何……漢の高祖に仕えた名臣。 韓信……漢の高祖に仕えた名將。
范增……項羽の軍師。

問一 波線部 a、k、e の語の読み方を、送りがなも含め、平仮名で答えよ。(現代仮名遣いでよい。)

問二 傍線部 ①、③ に訓点を施せ。

問三 二重傍線部の質問に対して、高起・王陵は何と答えているか、簡潔に説明せよ。

問四 傍線部 ②、④ を口語に訳せ。

問五 傍線部 ⑤ を書き下し文に直せ。また、高祖は、結果的に傍線部 ⑤ のような結末を迎えた理由が何であると述べているか、簡潔に説明せよ。

問六 □ に共通して当てはまる置き字として最も適切なものを選べ。

ア 矣 イ 于 ウ 焉 エ 兮 オ 而

問七 『史記』の作者名を漢字で書け。

科目
国語解答用紙
二枚中の一
受験番号
氏名

(2020年)

問一

⑤	①
⑥	②
⑦	③
⑧	④

問二

--

問三

--

問四

①

問五

②

問六

--

問七

--

問八

--

科目	国語解答用紙
	二枚中の二
受験番号	
氏名	

(2020年)

二

問一	ア
	イ

問二	a
	b

c

問三	
----	--

問四	②
----	---

③

問五	訳
	説明

問六	
----	--

問七	
----	--

問八	
----	--

三

問一	a
	b
	c
	d
	e

問二	①
	陛下 使人 攻城 略地、
	③
	未知 其二。

問三	
----	--

問四	④
	②

問五	書き下し文
	理由

問六	
問七	

科目	国語解答用紙
	二枚中の一
受験番号	
氏名	

(2020年)

一 [50点]

問一

① さと	② 顕在化	③ 前提	④ うべな
------	-------	------	-------

⑤ かたく	⑥ 調停員	⑦ 万策	⑧ 決裂
-------	-------	------	------

【①点×8＝⑧点】

問二 (例) 受け止めること、認めること以外にも聴く方法はある

【④点】

問三 (例) 語る／聴くという関係のなかで、ずれや齟齬、すれ違いといったぎすぎすした関係を何度も経験しながら、言葉を積み重ねていく時間。

【⑤点】

問四 ① (例) 寝不足で仕事の効率が落ちてしまい、仕事が期限までに終わらずに、よりひどい寝不足の状態に陥るといふ悪循環から抜け出せない。

(例) たがいに他人の家のことには踏み込まないようになって、聞き役もいなくなった。

② 聴くプロが登場 ← プロがいるとみずから聴く前にプロに頼る (ますますプロに頼る) 他人の話など聞かなくなる ← ますます他人の話など聞かなくなる

【①…③点・②…⑤点＝計⑧点】

問五 (例) 相手を理解するということが相手と同じ気持ちになることだと思っているひとが多いなかで、この母親は、息子とは性があわないということを、自然に受け入れていたから。

【⑤点】

(例) 「納得」とは、双方がそれぞれの言い分をぶつけ合いながらも、この修羅場から降りずに、果てしなく苦しい時間を共有してくれたことに意識が及んだときに生まれる心持ちであるため、「かんたんにわかられ」と逆に頑になる。これと同様に、「他者の理解」も、違いを思い知らされながらも、そこから逃げずに言葉を果てしなく交わすなかで生まれるものであり、事態だけ簡単にわかられても、それはほんとうの意味での「他者の理解」ではないから。

【⑧点】

問七 (例) 現代社会は、人種、性別、年齢をはじめ、多様な個性や価値観を持った人々が共に生きていくことが求められており、このような社会においては一層、違いによる衝突から逃げることなく、時間をかけて向き合い続け、自分と相手との差異を理解していくことが必要となるから。

【⑦点】

問八 (例) 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

【⑤点】

二【25点】

問一 ア くら(う)うど イ くだん

【1点×2＝2点】

問二 a 世間でも一目置かれるほどの立場 b 見事に歌をお詠みになっている。
c 人の良い点についても言ってはいけない。まして、悪い点については言うまでもない。

【2点×3＝6点】

問三 (例) 知房が、自分よりかなり和歌に秀でている伊家に、自分の和歌を褒められたことに腹を立てたということがあったから。

【3点】

問四 ② (例) ク活用形容詞「かたはらいたし」の連体形 推量の助動詞「べし」の終止形
かたはらいたる 連用形に接続
③ (例) サ行四段動詞「遣はす」の連用形 過去の助動詞「けり」の已然形(連用形に接続)
遣はし たり けれ ば
完了の助動詞「たり」の連用形(連用形に接続) 接続助詞(順接の確定条件)

【2点×2＝4点】

問五 訳 (例) これこそ、褒めたたえてよかったと思われる。
説明 (例) 範永が、褒められたことをとても嬉しく思い、懐紙の草案を宝物として大事に持っていたこと。

【訳2点+説明2点＝4点】

問六 公任卿(藤原公任) 問七 イ

【1点】

問八 (例) 図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりする活動。

【3点】

三【25点】

問一 a あへ(え)て b ゆゑ(え)ん c よつ(つ)て d しかず e あたは(わ)ざりき

【1点×5＝5点】

問二 ① 陛下(ハ)使(メ)人(ラ)攻(メ)城(ヲ)略(セ)地(ヲ)、 ③ 未(ダ)知(ラ)其(ノ)一(ニ)。

【1…3点、3…2点＝計5点】

問三 (例) 項羽は、優れた者や能力のある者を妬んだり疑ったりし、戦いに勝っても人に功績を与えず、土地を得ても人に利益を与えなかったため。

【3点】

問四 ② (例) 天下の人々と利益を分け合った。
④ (例) 勝利をはるか遠方の地において決める点では、

【2点×2＝4点】

問五 書き下し文 此れ其の我の擒と為りし所以なり。(と)。
理由 (例) 自分は、部下である張良、蕭何、韓信三人の優れた点を見極め、上手に用いることができたが、項羽は、軍師である范増を十分に用いることができなかつたため。

【書き下し文2点、理由3点＝5点】

問六 才 問七 司馬遷

【1点】

【2点】